

二〇二六年度

入学試験問題

I 国 語

(五十分)

注 意 事 項

- 1 開始の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけません。
- 2 試験問題は22ページあります。
- 3 解答はすべて解答用紙に記入しなさい。
- 4 解答用紙にマス目(例:

--

)がある場合は、句読点などもそれぞれ一字と数え、必ず一マスに一字ずつ書きなさい。なお、行の最後のマス目には、文字と句読点などを一緒に置かず、句読点などは次の行の最初のマス目に書き入れなさい。
- 5 終了の合図があったら、すぐに解答をやめなさい。

受験番号

--	--	--	--	--

問題は次のページから始まります。

【1】 次の 1・2 は、「潘安仁（潘岳）」について書かれたものです。これを読んで、後の問いに答えなさい。

1

むかし潘安仁¹といふ人ありけり。姿ありさま、たぐひなくなまめかしく清^{きよ}けにて、そのかたちは、玉^{たま}などのよくひかる様にぞ見えける。秋のあはれを述^のべて賦^{※1ふ}につくり、こと^{（何事につけても）}にふれてなさけ深^{ふか}くやさしかりければ、世の中にありける女、さながら名^{（すつかり甚）}を聞^ききたちを見るより、したもえのけぶり絶^たゆる時²なかりけり。車^のに乗りて道^{みち}をゆくに、道^{（路上で出会った女は）}にあひたる女、思^{（思いが強いあまりにであらう）}ひのあまりにや、たちばなの枝^{えだ}をとりて、車^{うち}の内になげ入れけり。人^{（出会う女がみなこのようにしたので）}ごとにかくしければ、くだ物車^{くるま}にあまりにけり。^{（一杯になつてしまった）}

^{（いつか二人で逢うことあるのではないかと願つて）}
めぐり逢ふこともやあると唐車^{からくるま} つみあまるまでなれるたちばな³

（『唐物語』 一部改変したところがある。）

2

岳^{（潘安仁のこと）}は姿儀美^{しぎ}にして、辞藻^{（詩文の言葉）}絶麗^{じそ}なり。尤^{もつと}も善^{※2あいるい}く哀誄^なの文を為^なす。少^{わか}き時常^{はじきゆみ}に弾^{はさ}を挟^{（都の名）}み洛陽^{（洛陽の名）}の道に出^いづ。婦人^{（潘安仁に会った女性たちは）}の之^{これ}に遭^あふ者は、皆手^{みなて}を連ねて縈^{（周りを囲み）}繞^{（潘安仁に）}し、之^{（潘安仁に）}に投^なぐるに果^{もつ}を以^{もつ}て、遂^{つひ}に車^{つひ}を満^みたして帰^{かへ}る。⁴

（『晋書』 一部改変したところがある。）

※1 賦…詩歌の形式の一つ。ここでは『文選』に載る「秋興賦」を指す。

※2 哀誄の文…人の死を悼む文。妻の死を悼んで詠んだ「悼亡詩」が知られている。

問一 ― 1 「潘安仁といふ人」はどのような人物ですか。当てはまるものを二つ選び、番号で答えなさい。

- 1 輝くほど美しい容姿である。
- 2 性情たくましく頼りになる。
- 3 女性の知り合いが多い。
- 4 どんな人にも優しく接する。
- 5 情趣を解し優れた詩文を書く。

問二 ― 2 「したもえのけぶり絶ゆる時なかりけり」とは、どういうことですか。最も適切なものを選び、番号で答えなさい。

- 1 恋敵への嫉妬心を燃え上がらせた。
- 2 周囲に内緒で自己を磨いていた。
- 3 心の内に恋慕の情を抱いていた。
- 4 恥ずかしくて顔をあげられなかった。

問三 ― 3 「つみあまる」の「つみ」を、解答欄に合う形で漢字に直しなさい。

問四 ― 4 「果」は、1 の文章の何に該当しますか。四字以上で具体的なものが分かる語句を探し、抜き出して答えなさい。

【二】 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

二〇一一年二月、「私」(伊智花^{※1})は岩手の県立高校二年生だった。美術部員の「私」は、昨年の夏に亡くなった最愛の祖母に捧げるような気持ちで、祖母が大好きだった不動の滝を夢中で描いていた。「私」の絵を評価している美術部顧問の「みかちゃん」は、滝の絵を褒めた上で、今は寒いから暖をとれるような滝以外の絵を描くことも勧めるが、「私」は納得いくように滝が描けるまで滝以外は描かないことを宣言する。それには半年かかったのだが、その間に震災が起きて岩手県は大変な事態に陥った。

四月末、新学期がようやく始まった。制服の学年章を三年生のものに付け替えて、新しい教室に足を踏み入れた。新しいクラスのうち、ふたりが欠席していた。実家が沿岸で、片付けなどの手伝いをしていると担任は言った。私は美術室に通う毎日を再開した。美術部は幽霊部員がほとんどで、コンクール四カ月前の部室でキャンバスに向かう部員は私だけだ。木の匂いと、すこしだけニスの匂いがある美術室にしていると、気持ちが研ぎ澄まされていくのがわかった。使い古されたイーゼル^{※2}を立てて、両腕をいっぱい伸ばしてキャンバスを置く。私は改めて、シュウ^a大成の滝を描こうと思った。不動の滝の写真を携帯に表示して、じっと眺めて、閉じる。大きく息を吸って、アタリ^{※3}の線を描き始める。自分のからだのなかに一本の太い滝を流すような、絵のなかの音を描きだすような、豪快で、繊細な不動の滝で、必ず賞を獲^とりたい。獲る。描きたすほどに、今までの中でいちばん立体的な滝になっていく。

七月のある日、顧問のみかちゃんが一枚のプリントを持ってきた。

「やる気、ある？」

みかちゃんは、懇願のようなシヤ^b罪のような何とも複雑な表情をしていた。そのプリントには、絵画で被災地に届けよう、絆^{きずな}のメッセージ♡が
んばろう岩手♡と書いてある。

「これは」

「教育委員会がらみの連盟のほうでそういう取り組みがあるみたいで、高校生や中学生の油絵描く子たちに声かけてるんだって。伊智花、中学の時に賞獲ってるでしょう。その時審査員だった連盟の人が、伊智花に名指しでぜひ描かないかって学校に連絡があって」

「はあ」

「県民会館で飾って貰^{もら}えるらしいし、画集にして被災地にも送るんだって」

「被災地に、絵を？」

「そう」

「絆^{きずな}って、なんなんですかね。テレビもそればかりじゃないですか」

「支^さえ合うってこと、っていうか」

「本当に大変な思いをした人に、ちょっと電気が止まったくらいわたしは『応援』なんて、なにをすればいいのかわかんないですよ」

「そうだね、むずかしい。でも絵を描ける伊智花だからこそ、絵の力を信じている伊智花だからこそできることでもあるんじゃないか、って、わたしは思ったりもするのよ」

「じゃあ、何を描けば」

「鳥とか、空とか、花とか、心が安らぐような、夢を抱けるような、希望や絆があって前向きなもの、って、連盟の人は言ってた」

1「……描いた方がいいですか」

「描いた方が、いろいろと、いいと思う、かな」

それから私は不動の滝の絵を描きながら、へ心が安らぐような、夢を抱けるような、希望や絆があって前向きなもの^{※5}のことを考えた。虹や、双葉が芽吹くようなものは、いくらなんでも「希望っぽすぎる」^{※4}と思ってやめた。ア、内陸でほとんど被害を受けていない私が何を描くのもとても失礼

な気がした。考えて、考えて、結局締切りぎりぎりになって、通学の道中にあるニセアカシアの白い花^{※4}が降る絵を描いた。その大樹のニセアカシアは、毎年本当に雪のように降る。あまりの花の多さに、花が降るたびに顔をあげてしまう。顔をあげるから前向きな絵、と思ったが、花が散るのは不謹慎^cだろうかと描きながら思っ、まぶしい光の線を描き足し、タイトルを「顔をあげて」とした。みかちゃんは「これは、すごいわ」と言っ²てその絵を出展した。私の絵は集められた絵画の作品集の表紙になった。その作品集が被災地に届けられ、県民会館で作品展が開かれるとなったら新聞社が学校まで取材に来た。

「〈顔をあげて〉このタイトルに込めた思いはなんですか？」

と、若い女性の記者はまぶしい笑顔で言う。あ。絵じゃないんだ。と思った。枝葉^{※5}のデテールや、影の描き方や、見上げるような構図のことじゃないんだ。時間がない中で、結構頑張っ²て描いたのにな。取材に緊張してこわばるからだから、力がすいと抜けていく感覚がした。この人たちは、絵で

はなくて、被災地に向けてメッセージを届けようとする高校生によるこんでいるんだ。そう思ったら胃の底がぐっと低くなって、からだにずっしりとした重力がかかっているような気がしてきた。記者はいますぐ走り書きができるようにペンを構えて、期待を湛^{たた}えてこちらを見ている。

「申し訳ない、というきもちです。わたしはすこし^{※6}ライフラインが止まったくらいで、たくさんものを失った人に対して、絆なんて、がんばろうなんて、言えないです」

記者は「ンなるほど、」と言ってから、しばらくペンを親指の腹と人差し指の腹でくくに触り、それから表紙の絵を掲げるようにして見て、言った。

「うーん。でも、この絵を見ると元気が湧いてきて、明るい気持ちになって、頑張ろうって思えると思うんですよ。この絵を見た人にどんな思いを届けたいですか？」

「そういうふうには、思ってもらえたら、うれしいですけど」

私は、早く終わってほしい、と、そればかり考えていた。描かなければよかったと、そう思った。そのあと、沿岸での思い出はあるか、将来は画家になりたいのかどうかなど聞かれて、私はそのほとんどを「いえ、とくに」と答えた。そばにいたみかちゃんは手元のファイルに目線を落として、私のほうを見ようとしなかった。記者が来週までには掲載されますので、と言いつつ帰って行って、私は、みかちゃんとふたりになった。深く息を吐き、吸い、「描かなければよかったです」と、イ言おうとしたそのとき、

「このさ、見上げるような構図。木のとっぺんから地面まで平等に、花が降っているところがすごい迫力なんだよね。光の線も、やりすぎじゃないのにちゃんと光として見える、控えめなのに力強くてさ。伊智花の絵はすごいよ。すごい」

と、みかちゃんはしみじみ言った。

「そう、なんですよ。がんばりました」

と答えて、それが涙声になっているのが分かって、お手洗いへ駆け込んで泣いた。悔しいよりも、うれしいが来た。私はこの絵を見た人に、そう言われたかったのだ。

それからの一カ月間、私は不動の滝の絵を力いっぱい描いた。同級生や親戚から「新聞見たよ」と連絡が来て、そのたびに私は滝の絵に没頭した。

〈この絵を見て元気が湧いたり、明るい気持ちになって、頑張ろうって思ってもらえたらうれしいです。と、加藤伊智花（いちか）さん（盛岡大鵬高等学校三年）は笑顔を見せた。〉

と、その記事には書かれていた。ニセアカシアの絵のことを考えるとからだも頭も重くなるから、私は滝の絵に没頭した。光をはらんだ水しぶきに筆

を重ねることに、それはほとぼる怒りであるような心地がした。流れろ。流れろ。流れろ。念じるように水の動きを描き加える。この心につかえる黒い靄^{もや}をすべて押し流すように、真っ白な光を、水を、描き足した。亡くなった祖母のことや賞のことは、ウ 頭になかった。私は気持ちを真っ白に塗りなおすように、絵の前に向かった。

描き終えて、キャンバスの前に仁王立ちする。深緑の森を真っ二つに割るように、強く美しい不動の滝が、目の前に現れていた。滝だった。私が今までに描いたすべての絵の中でいちばん力強い絵だった。^{※7}「怒濤^{どとう}」と名付けて、^{※8} 出展した。

高校生活最後のコンクールは昨年の優秀賞よりもワンランク下がって、優良賞だった。私よりもどう見ても画力のある他校の一年生の描いた校舎の窓の絵や、着実に技術を伸ばした同学年の猫の絵が、上位に食い込んでいた。最優秀賞は、私と同じ岩手県の沿岸、大船渡市^{おふなと}の女子生徒のものだった。ごみごみとしてどす黒いがれきの下で、双葉が朝露^たを湛えて芽吹く絵だった。あまりにもA 的で、写実的^{※8} と言にくいモチーフだった。色使いも、陰影と角材の黒の塗り分けが曖昧で、朝露の水滴の光り方もかなり不自然。これが最優秀賞。そんな可笑^{おか}しいだろうと思った。最優秀賞を受賞した生徒は高い位置にポニーテールをして、肌がこんがり焼けていて、明るそうな人だった。東京で行われた授賞式で、私は初めてその人の顔を見た。「わたしはあの日、家と母を亡くしました。避難所でしばらく暮らしていて思ったのは『絵を描きたい』という強い思いでした。いまはテニス部だし、しばらく描くことから離れていました。そんなわたしでも、絵を描いている間、わたしはわたしの内側にあるきもちと対話することができました。暗いがれきの中で泣いて、怒って、悲しんでいたはずの、どこに向かえばよいかわからなくなっていたわたしは、それでも最後にこの双葉を、気が付いたら、描いていました。こんな栄誉ある賞をいただき、どうしていいのか……」

と、彼女は手元のメモをちらちら見ながら、押し出すようにとぎれとぎれに言った。審査員席に並んでいる六十代くらいの女性は、ハンカチで目元を押さえていた。私も喉の奥がぐつとせりあがってきて、熱くて苦しかった。彼女の言葉には不動の滝を描いていた時の自分とどこか重なるものがある。それなのに、私は、それでも。エ 絵じゃないんだ。と思った。審査されているのは純粹にこの作品ではなく、「この作品を描いた高校生」なのではないか。作品と作者の不遇を紐づけてその感動を評価に加点するならば「特別震災復興賞」という賞でも新設すればよかったのに、とすら思った。「あのお、本当に、こういった、ね、たいへんな、未曾有^{みぞう}の、あのお、そういう、事が起きたわけですが。こういった状況の中で、えー、筆を持つことを、うん。あきらめなかった彼女に、審査員一同、希望のひかり、そして絵の持つ力を再認識しました」

と、審査員のひとりと言った。その審査員は東京の高校の美術教師だった。震災のことを「あのお、そういう、事が起きた」としか言えないような人が言う「希望のひかり」って、いったい何なのだろう。

無カ^dンの絵となつてしまつたものの、私は滝の絵をとても気に入つていた。返却された絵を改めて美術室に運び入れ、イーゼルの上にのせる。水面に向かつて茂っている深緑色の木々。その闇を分かつような白い滝。目を閉じれば音が聞こえてくるような水しぶき。その絵の上流から下流まで目で三度なぞり、二歩下がつてもう一度眺めた。いい絵だ、と思つた。どうしてこれがあの絵に負けてしまつたのか、本当はまだ納得がかなかつた。

お手洗ひから戻ると、下校確認のジューン^e回をしていた世界史の、たしか榊^{さかき}という名の教師がノックもせず美術室に入つてきて、私の絵を見た。
「CG^{※9}みてえな絵だな、これ、リアリティがよ。部員が描いたのか？」

私は自分の絵だというのが気恥ずかしくて「そうみたいです」と答えた。

「立派な絵だよな。ちょっと、今このご時世で水がドーンと押し寄せてきて、
オ^oタイトルが『怒濤』つてのは、ちょっときつすぎるけど、俺は意外とこういう絵がすきなんだよ」

榊はキャンバスの下につけていたキャプション^{※10}の紙の「怒濤」という文字を、人差し指でちろちろと弄んでから、イオッシ！ 早く帰れよな、と言つて、次の見回りへ行つた。

榊が出て行つたあと、私はしばらくこの絵に近づくことができなかった。五歩くらい離れた場所から絵を睨^{にら}んでは、さつき榊が言つていた言葉を何度も頭の中で繰り返した。右足が自然に浮いて、地面について、それを繰り返す。大きな貧乏ゆすり⁴をしている自分がいた。何度も足をあげ、おろす、あげ、おろす。指定靴のスニーカーの底の白いゴムが床につくたびに、きよ、きよ、きよ、と間拔けな音がした。なるほどね。だから、だから私の滝の絵は賞を獲れなかつたことね。私から私が剝^はがれていく感覚がした。あーあ、そういうことだった。だった。では。はい。なるほどね。なるほど、なの？ 黙つてニセアカシアの絵を描けばよかつたんだろうか。心が安らぐような、夢を抱けるような、希望や絆があつて前向きなもの。鳥や、花や、空を、描けば。

「この絵を見て元気が湧いたり、明るい気持ちになつて、頑張ろうつて思つてもらえたらうれしいです」

と、小さく声に出して言う。言つて、左足を下げて、助走をつけて絵に向かつて走る。迫力のある滝のしぶきに私が近づいていく。蹴とばそう、と思つた。こんなもの、こんなもの！ 私はいきなり右足を後ろに振り上げて、その反動を使つて勢いよく蹴つた。いや、蹴ろうとした。「んらー」と、声が出た。しかし私は絵を蹴ることができなかった。咄嗟^{とっさ}に的をずらし、イーゼルを蹴つた。蹴り上げられたイーゼルの左の脚が動いてバランスが崩れ、キャンバスの滝がぐらりと大きく揺れた。私は倒れ込むとする滝へ駆け寄つた。両手でキャンバスの両端を支えて持ち上げると、イー

ゼルだけが鋭い音を響かせて床へ倒れた。

吹奏楽部の金管楽器が、ぱほおー、と、さつきから同じ音ばかりを出している。それがそういう練習だと知っていても、間抜けなものだった。夕方の美術室にひとりきり、私は私の滝を抱きしめていた。⁵

（くどうれいん『氷柱^{つらら}の声』 一部改変したところがある。）

- ※1 伊智花：高校二年生の夏の全国絵画コンクールで優秀賞を受賞。自分より上位の生徒が三年生だったので、同学年の中では一番最優秀賞に近いという自信がある。
- ※2 イーゼル：絵を描く時、画板やキャンバスをかける台。なお、キャンバスとは、油絵用の画布。
- ※3 アタリ：物事を行うときの目当てや手がかり。
- ※4 ニセアカシア：五、六月ごろ、白い香りのある蝶形の花が、藤の花のように、多数房状に垂れて咲く。
- ※5 デイテール：美術で、ある作品全体に対してその部分のこと。
- ※6 ライフライン：都市生活の維持に必要な、電気・ガス・水道・通信・輸送などをいう語。
- ※7 怒濤：荒れ狂う大波。また、はげしい勢いで押し寄せるようすのたとえ。
- ※8 モチーフ：ここでは、絵画などの創作の動機となった主要な題材のこと。
- ※9 CG…computer graphicsの略。コンピュータを使って作成された画像や図形をさす。
- ※10 キャプション：絵画のキャプションには、作品のタイトル、作者名、制作年、技法、サイズ等が載せられる。

問一 — a～eに相当する漢字を含むものを、次の各群の1～4の中からそれぞれ一つずつ選び、番号で答えなさい。

a シュウ大成

- | | | | |
|---|------------|---|-----------|
| 1 | 証拠品を押シュウする | 2 | 古い慣シュウを破る |
| 3 | 物事にシュウ着する | 4 | 招シュウをかける |

b シャ罪

- | | | | |
|---|-------------|---|-------------|
| 1 | 傾シャの多い山道を登る | 2 | 窓を閉め切りシャ音する |
| 3 | 取シャ選択を繰り返す | 4 | 不祥事を陳シャする |

c 不謹シン

- | | | | |
|---|-------------------|---|----------------|
| 1 | 知らない土地ではシン重であるべきだ | 2 | 他国の市場をシン食する |
| 3 | 単シンで敵陣に乗り込む | 4 | シン進気鋭の研究者が登場した |

d 無カン

- | | | | |
|---|-----------------|---|-------------|
| 1 | カン尊民卑の考えは改めるべきだ | 2 | 勝利の栄カンを勝ち取る |
| 3 | カン喜して踊り上がる | 4 | 名画をカン賞する |

e ジュン回

- | | | | |
|---|-----------------|---|---------------|
| 1 | 過去の発言を基ジュンに判断する | 2 | 経済の好ジュン環を生み出す |
| 3 | 留学するか遼ジュンしている | 4 | 武器を捨てて帰ジュンする |

問二 ア イ に入る語句として最も適するものを次の中からそれぞれ選び、番号で答えなさい。ただし、同じ番号を二度以上選んではいけません。

- 1 まさに 2 もはや 3 やっぱ 4 おまけに 5 そもそも

問三 A に入る語句として最も適するものを次の中から選び、番号で答えなさい。

- 1 虚栄 2 作為 3 技巧 4 世俗

問四 ——— 1 「……描いた方がいいですか」とあるが、このときの「私」の心情を説明したものとして、最も適するものを次の中から選び、番号で答えなさい。

- 1 大変な状況である被災地に何の役にも立たない絵を送るのは、被災地にとって迷惑でしかないかと心配している。
- 2 最優秀賞を目指して頑張っているこの時期に、コンクールとは無関係の絵を描く時間がとられることにいらだちを感じている。
- 3 社会全体が絆を連呼している状況に強く反発している自分が、絆を感じさせるような絵は描けないと思って断ろうと考えている。
- 4 同じ岩手県に住んでいてもそこまで被害にあっていない自分のような人間が、被災地を応援するような絵を描いて良いのか悩んでいる。

問五 ——— 2 「新聞社が学校まで取材に来た」とあるが、「新聞社の取材」に対する「私」の心情を説明したものととして、最も適するものを次の中から

ら選び、番号で答えなさい。

1 今回の企画の性質上起こりうることはあるが、自分が頑張って描いた絵を取り上げることもなく、被災者にメッセージを送る高校生という新聞社の期待に基づいた取材に落胆している。

2 今回の企画に疑問を抱きつつも時間をかけて頑張って絵を描いたのに、そのような自分の苦勞に触れないまま被災地へのメッセージを質問する新聞社の取材にいらだちを覚えている。

3 今回の企画のための絵には、被災地への応援の気持ちを自分なりに込めたのだが、新聞社の想定した範囲内でしか自分のメッセージをくみ取ろうとしない取材にやきもきしている。

4 考えあぐねた末に頑張って描いた今回の絵そのものよりも、被災して苦勞しながらも前を向く高校生の姿勢をこの絵から読み取ろうとする新聞社の取材に戸惑っている。

問六 ——— 3 「この心につかえる黒い靄」とあるが、これに含まれないものを次の中から選び、番号で答えなさい。

1 自分の絵を理解しようとしませんが、自分の絵を語っている記事に対する不信任感。

2 自分の絵を利用して、本心とは異なる自分の人間像を書いた新聞に対するわだかまり。

3 テーマに相応しい技術で描かれた絵によってこそ、本当の自分は表現できるといふこだわり。

4 ニセアカシアの絵を描かずに、コンクールに向けて不動の滝を描き続ければ良かったという後悔。

問七 ——— 4 「大きな貧乏ゆすりをしている自分がいた」とあるが、このときの「私」を説明したものとして最も適するものを次の中から選び、番号で答えなさい。

1 今回の絵も最終的にはタイトルがその価値を決定したようなので、絵画のコンクールとはいえタイトルをもっと考えるべきだったと悔やんでいる。

2 世の中の風潮を考慮せずに、自分の技量を最大限に発揮して描きたいものを描きさえすれば最優秀賞を獲れると考えていた自分を愚かだと感じている。

3 普段から親しくしているわけではない教員に自分の絵の特徴を指摘されたことで、自分が最優秀賞を獲れなかった理由をあれこれと思い悩んでいる。

4 最優秀賞を獲ろうと持てる限りの技術を発揮した結果、リアリティはあるもののCGのような絵になっていたことに気付かなかった自分を間拔けに感じている。

問八 ——— 5 「私は私の滝を抱きしめていた」とあるが、このときの「私」の心情を九十字以内で説明しなさい。

問九 本文の内容や表現について、適切に説明しているものを次の中から二つ選び、番号で答えなさい。

1 平易で日常的な言葉が使われているため、読み手は第三者の視点で作品世界を捉えることが出来る。

2 あえて時間軸に則らずに場面を配置することで、作品全体が対称性を備えた絵画のようなものになっている。

3 最愛の祖母が大好きだった不動の滝を描くときは、いつも伊智花はその祖母を意識して、夢中で描くことが出来ている。

4 顧問の「みかちゃん」は結論を伝えて導くようなことはせず、伊智花の不器用なところも解っている良き理解者である。

5 伊智花より上位に入賞した絵や生徒が描写されていることで、読み手は伊智花が最優秀賞を獲れなかった理由を推測しやすくなっている。

6 若い女性の記者の取材により、伊智花は絵に対する迷いが生じ、コンクールでは最優秀賞どころか、昨年より劣る優良賞を受賞することになる。

【三】 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

日本で「利他」という言葉を初めて使ったのは、平安時代における真言宗の開祖、空海だといわれています。そして、仏教における「利他」は、「利己」の対義語としての「利他」とは、まったく違う意味を持つ言葉なのです。

¹ 空海は単に「利他」と書くのではなく、「自利利他」と書いています。「利他」は「自利」と切っても切れない関係にある。さらにいえば、「自利」こそが「利他」の土壌であるとすら空海は考えていたのです。

仏教には「自他一如」という言葉があります。一如とは、簡単にいえば、通常二つであるはずのものが、一つになっていることを指します。たとえば「心身一如」とは、心と身体は同一のものであるということです。

A 「不二^{ふに}」という言葉もあります。それは、けっして「二」にならない一つの存在のありようを意味しています。

つまり、東洋の伝統的な考え方では、「自他」というものは、分かちがたく存在している。日本における「利他」の本質とは、自分と他者が深くつながることなのです。

しかし、現代に生きる私たちは、「利他」とは何かを考えると、通常、空海の時代にさかのぼることはありませんし、それが仏教に由来する言葉であることも忘れていきます。ほとんど何の疑いもなく、西洋思想における「X」との比較に流れてしまう。よく考えてみれば、じつに遠回りな、不可解なことです。

「利他」という日本語を、西洋的な意味のなかでとらえようとする。どうしてこんな奇妙なことが起きたのでしょうか。²

西洋思想において、「利他」にあたる言葉は、altruism（仏：アルトゥルイスム）といいます。一九世紀フランスの哲学者オーギュスト・コント（一七九八―一八五七）によって提唱されました。これまでは「利他主義」だけでなく「愛他主義」とも訳されてきました。

コントは「愛」のはたらきを重んじたから、altruismは「愛他主義」と訳した方がその原意に近いと思います。ただ、ここで一つ、注意すべきことがあります。それは、コントの時代における「ism」という言葉の語感です。

現代で「ism」は「資本主義」「社会主義」「構造主義」「マルクス主義」など、ある思想を指す言葉ですが、もともとの意味は違います。それはむしろ、日本語でいう「道」に近い語感を持つものなのです。

仏教——より正確には仏道——は英語でBuddhismといえます。道教はTaoismです。岡倉天心（一八六三―一九一三）は英語で著した『茶の本』

で、茶道を Teism と書いています。

同質の感覚は、コントにも生きています。彼にとつての「愛他主義」もまた、ある「思想」ではなく、人間が生きる「道」を意味する言葉だったのです。

^aしかし、このコントの「発明」が起こったのは、日本で「利他」という言葉が生まれてから、およそ一〇〇〇年後のことです。まず、この時間差にリユウ意したいと思います。

一〇〇〇年以上のあいだ、西洋では^bタンの「利他」を示す言葉がなかった。

B

、「隣人愛」や「いつくしみ」「あわれみ」など、「利他」に相当する言葉がありました。しかし、それらは必ずしも「利他」と同じ意味ではありません。

言葉が存在しないということは、

Y

ということす。つまり、「利他」の哲学において、東洋は西洋に一〇〇〇年、先んじていたといえそうです。

そこでまず、現代人と「利他」とのあいだにある溝を埋めるために、西洋思想における「愛他／利他主義」の意味を読み解きながら、「利他」との差異を確かめてみたいと思います。

二〇世紀フランスを代表する哲学者に³アラン（一八六八―一九五二）という人物がいます。『幸福論』の著者としてもよく知られています。アランは、オーギュスト・コントを非常に敬愛していました。彼は、自身の哲学の重要なものがコントに由来すると言明しています。アランは、自分にとって大切な言葉を定義し、書き残す習慣がありました。没後、それらが『定義集』という一冊の本になって刊行されます。そこでアランは「愛他主義」をこう書き記しています。

愛他主義

これはエゴイズムの反対である。これは他の人たち (autrui) 「他者」のことを思う性格、彼らが何を思っているか、何を感じているか、何を希望しているか、何を欲しているか、何を欲するはずであるか、何を我慢することができないか、などを考える性格である。これは他人の位置に自分を置くことである。したがって、彼らが表明する、あるいは彼らが表明すると想定される^{さんたん}讃嘆や非難によって強く影響される。（『定義集』^{かみやみきお}神谷幹夫

訳 岩波文庫）

アランもやはり「利他主義はエゴイズムの反対だ」と述べています。それは自分本位ではなく、他者本位のあり方、生き方だということです。それは、単に他者のことを「思う」のではなく、他者の立場に立ち、判断し、行動することであるとも述べています。愛他主義つまり「愛他」の道は、一つの実践である。それがアランの実感でした。

さらにアランは、「愛他」の本質が実践である以上、他者からの影響を否^ア応なく受けることになる、とも考えていました。つまり、単に語られることではなく、人間によって、生き、経験される出来事だということです。

このアランの定義に、違和感を覚える人は少ないのではないのでしょうか。私も「愛他主義」の定義として、これ以上のものはないと思います。ただ、⁴ここで述べられていることが「利他」にもいえるかというと、そうではありません。

アランの定義では、「自分」と「他者」はどこまでいっても、別々の二者です。しかし、空海がいう「自利利他」という言葉は、別な地平に私たちを連れて行きます。それは「利」という言葉を真ん中に「自」と「他」を貫くような出来事なのです。「自」と「他」はそれぞれ独立したままでありながら、一つである。言葉で表現するとじつに矛盾に満ちた経験なのです。

もう少しアランの思想をめぐって考えてみましょう。「愛他主義」の対義語であると書いていた「エゴイズム」をアランは次のように定義しています。

エゴイズム

身体の境目と結びついた思考であり、快楽を選び量るように、苦しみや病気を予見し遠ざけることに^cセン心した思考である。もしエゴイズムがタマシイから、恥ずべき情感、卑怯さ、^eアヤマち、悪徳を遠ざけるためにタマシイを監視するならば、エゴイズムは一種の徳となるだろう。しかし、エゴイズムはその用法上、意味の拡大を禁じている。（同前）

エゴイズムは、自分の身体に深く関係し、かつその快楽と密接にからみあっている。確かにアランのいう通りです。あるものが、どうしても欲しいと思つたとたん、私たちのなかにエゴイズムが目覚めてきます。

また、アランは、自分の苦しみ、病いを「予見し遠ざけ」ようとするときも、人はエゴイズムに流される、とも書いています。

そしてアランは、もしもエゴイズムが、悪徳を遠ざけようとするものであるなら、エゴイズムもある種の徳になると考えることもできるかもしれない、しかし、そうした拡大解釈は、この言葉の場合、ふさわしくない、ということです。

C、アランは、自分にとって好ましくない「苦しみ」を遠ざけ、他者に押し付けることが正当化されてはならない、と考えている。アランにとつてのエゴイズムは、本来存在する自他の「つながり」を見失った状態だといえそうです。

この文章が書かれたのは、半世紀以上前です。しかし、どうでしょう。現代を生きる人間の側面をじつに的確にいい当てているのではないのでしょうか。

現代は、個人主義が大きな力を持つようになり、自分と他者が分断される状況が続いています。単なる個人主義ではなく、^イ分断的個人主義というもの、広がりつつあるのです。

そのように利己的になつてしまう状況が続いたら、何が起ころうでしょうか。まず、考えられるのは、私たちが気が付かないところで、誰かの大切な人を傷つけてしまうことです。さらに悲惨なのは、利己的にふるまうことで、知らないうちに自分の大事な人を傷つけてしまうことです。

こうした悲劇を一つでも少なくするために「利他」とは何かを考えてみたい。そのためには「利他」について知るだけでなく、「利他」を生きてみなくてはなりません。もしも、利他の哲学というものがあり得るとしたら、それは単に「知る」ことで終わるのではなく、必ずある行動に私たちを導くと思うのです。

（若松英輔『NHK出版 学びのきほん はじめての利他学』 一部改変したところがある。）

問一 — a～eに相当する漢字を含むものを、次の各群の1～4の中からそれぞれ一つずつ選び、番号で答えなさい。

a リュウ意

- 1 海底がリュウ起する。
- 2 素リュウ子物理学を学ぶ。
- 3 ル守番をする。
- 4 噂がル布する。

b タンの

- 1 タン純な仕組みを作る。
- 2 タン息を漏らす。
- 3 論理の破タンを指摘する。
- 4 責任の一タンを担う。

c セン心

- 1 セン天的な才能をもつ。
- 2 セン門的な知識を付ける。
- 3 セン脳される。
- 4 セン律が響く。

d タマシイ

- 1 チームがコン沌としている。
- 2 新しいルールにコン惑する。
- 3 コン胆が見える。
- 4 コン拠を基に反論を述べる。

e アヤまち

- 1 カ失を吟味する。
- 2 大企業の傘カに入る。
- 3 コロナカを生きる。
- 4 カ中の人に会う。

問二 ―― ア・イの語句の意味として文中において最も適するものを、次の各群の 1 ～ 4 の中からそれぞれ一つずつ選び、番号で答えなさい。

ア 「否応なく」

- 1 受ける側が否定的な気持ちを表明する隙もなく
- 2 相手がどのような働きかけをするかに関係なく
- 3 対象とする事物の良し悪しを見極める技量もなく
- 4 受けるかどうかについてを判断する選択肢もなく

イ 「分断的個人主義」

- 1 他者と共生しながら相互に議論し、自由と権利を分かち合おうとする立場や理論。
- 2 他者と個人を切り離し、自己の権利と自由を尊重することを主張する立場や理論。
- 3 個人の自由な発言や活動を主張し、社会からの統制や束縛に反対する立場や理論。
- 4 個人の自由のために、社会と個人の利益を一致させないようにする立場や理論。

問三

A	く	C
---	---	---

 に入る語句として、最も適する組み合わせのものを次の中から選び、番号で答えなさい。なお、同一記号の

--

 には同じ言

葉が入る。

- | | | | | | | |
|---|---|------|---|------|---|-----|
| 1 | A | あるいは | B | もちろん | C | つまり |
| 2 | A | そのうえ | B | たしかに | C | さらに |
| 3 | A | さらに | B | すなわち | C | ただし |
| 4 | A | または | B | たとえば | C | しかし |

問四 ——— 1 「空海は単に『利他』と書くのではなく、『自利利他』と書いています」とあるが、「自利利他」

の考えを表しているものとして最も適するものを次の中から選び、番号で答えなさい。

1 お弁当を持ってくるのを忘れたと友人が言うので、自分用に買ってきたパンを渡したが、これは友人の悲しそうな姿を見ていたら空腹が気にならなくなったからである。

2 掃除当番の日以外でも教室の床の汚れが気になるときには一人で掃除をすることがあるが、これは自分たちが一日の多くの時間を過ごす教室はきれいな方が快適だからである。

3 現代文の授業では、早めに文章全体を読んで理解したら自分が読書している本の続きを読んでいるが、これは読むのが遅い人に合わせた授業が自分には物足りないからである。

4 部活動で後輩たちの指導をするときに、一人一人の課題と長所を書いたメモを渡したが、これは後輩の立場で考えると今後の参考になるコメントが欲しいと思ったからである。

問五

X

 に当てはまる言葉として最も適するものを次の中から選び、番号で答えなさい。

1 資本主義

2 愛他主義

3 利己主義

4 個人主義

問六 ——— 2 「こんな奇妙なこと」とあるが、何が「こんな奇妙」なのか。その説明として最も適するものを次の中から選び、番号で答えなさい。

- 1 現代の日本人は、他者の立場で考える日本古来の「利他」の考え方ではなく、自己と他者を分かちがたい存在と捉える西洋的な「利他」の捉え方を基にしていること。
- 2 現代の日本人は、日本には空海の「自利利他」から始まる「利他」の概念があるにもかかわらず、西洋的な「利他」の捉え方をすることが一般的であること。
- 3 現代の日本人は、日本古来の「自利利他」がどのような仏教的精神に基づいているのかを理解しようとせず、西洋的な考えの方が優れていると考えていること。
- 4 現代の日本人は、言語が変われば同じような言葉でも少しずつ異なった意味になることに気付かず、西洋的な「利他」を基に「利他」の意味を捉えようとする。

問七

Y

に当てはまる言葉として最も適するものを次の中から選び、番号で答えなさい。

- 1 別の概念が人々に広く支持されていた
- 2 別の言葉で代替可能だと思われていた
- 3 その概念に対する肯定的な意見がなかった
- 4 そのことをめぐる思想的な探究がなかった

問八 ——— 3 「アラン（一八六八―一九五一）」という人物」とあるが、この人物の考え方を説明したものとして最も適するものを次の中から選び、番号で答えなさい。

- 1 アランが提唱した「愛他／利他主義」という概念は、人間が生きる「道」を表し、他者を想う生き様を表す意味で「隣人愛」や「いづくしみ」と同等の概念である。
- 2 現代日本人の「利他」の認識に近いアランの「愛他／利他主義」は、エゴイズムと対照的なもので、他者の立場で考えて判断するがゆえに他者からの影響を受けやすいものである。
- 3 アランの「愛他／利他主義」は「エゴイズム」の対極にある存在であり、「エゴイズム」は自分本位の欲望や快楽、病いや苦しみに対する献身的な活動から生まれるものである。
- 4 半世紀以上前に書かれたアランの「愛他／利他主義」や「エゴイズム」に関する文章は、他者との関わりの中で自分を作り出すという意味で現代人の性質を言い表したものである。

問九 ——— 4 「ここで述べられていることが『利他』にもいえるかという点、そうではありません」とあるが、「ここで述べられていること」と「利他」の違いは何か。『ここで述べられていること』とは、「」に続けて、八十文字以内で書きなさい。

問十 本文の説明として最も適するものを次の中から選び、番号で答えなさい。

- 1 日本古来の考え方では自他は表裏一体の関係だが、西洋では独立した個人として捉えられているというように、自己と他者の捉え方という点に焦点化しながら東洋と西洋の「利他」の捉え方を比較したうえで、筆者はどちらの立場で論じていくかを明らかにしている。
- 2 空海の「自利利他」やアランの「愛他主義」や「エゴイズム」など、東洋と西洋の「利他」の捉え方に関する言葉を引用して語感や語源から東洋と西洋の思想の相違点を詳述しつつ、「利他」とはどのようなものだと捉えるのか筆者自身の考え方を書いている。
- 3 西洋的な「利他」の考え方が東洋の考え方と大きく異なるのは自己と他者を別ものとして扱っている点だとしつつも、西洋的な考え方も自己と他者のつながりを前提としており、分断的個人主義社会において「利他」について考えることの大切さを示している。
- 4 平安時代の仏教思想をルーツにもつ「利他」という言葉が現代日本社会で一般的にどのような捉えられているのかを踏まえた上で、東洋と西洋の自他の捉え方の違いに焦点化しつつ「利他」の概念が発明されてから現在までどのように変遷したのかをまとめている。

(問題は、これで終わりです。)

